

新型コロナウイルス感染症の感染者数の変化を視覚化することで、緊急事態宣言の発令前後で都道府県の特徴を分析することを目的とした。分析手法については、Rを用いて、都道府県別の検査陽性者数等を棒グラフで視覚化し、散布図により、47都道府県を大きく東と西の二つに分け、1週間ごとの相関を確認した。

結果、首都圏では、感染者数が多数いるが、死者率をみると、少ない。一方で地方都市では、感染者数が少ないが、死者数が首都圏より多く、死者率も高いことがわかる。